

下伊那支部 南信大会報告

支部代表 飯田市立上久堅小学校 増田 祐美

- 1 開催日・会場 10月24日 松川町 松川中央公民館えみりあ「えみりあホール」
- 2 大会テーマ 「学校図書館の挑戦 ～日頃の取組から学校図書館の未来を描く～」

- 3 講演会 講師 三宅 香帆 氏(文芸評論家 京都市立芸術大学非常勤講師)
演 題 「言語化の技術」

- 4 参加人数 講演会:82名 下伊那支部取組発表:55名
グループ別情報交換会:43名



5 まとめ

【三宅香帆氏 講演会】

「読書」「ノイズ」「言語化」に触れながら講演いただきました。

参加者からは「楽しく元気になれる内容だった」「あっという間の 90 分だった」との声が多く寄せられ、講師の軽妙な語り口と豊富な事例が、読書の新しい魅力を伝える場となりました。

「ノイズは悪いものではなく、偶然の出会いや周辺知識が新しい発想を生む」という言葉は印象的であり、図書館や書架をめぐる体験の価値を再認識させるものとなりました。また、「好き」を細分化して言語化することが、自己理解や他者理解につながるという視点は、学校現場での読書指導や本の紹介活動に直結する実践的示唆を与えていただきました。

【下伊那支部取組発表】下伊那支部代表 飯田西中学校・牧野優子

- ①下伊那教育会学校図書館委員会活動紹介
- ②飯田市学校図書館取組紹介:「自発的な読書活動の推進」「情報活用能力育成指導の推進」を柱に据えた図書館経営計画の作成と年度末の実践報告共有など、市全体でよりよい図書館づくりに取り組んでいる。また、市内全校司書が共有で使えるデータを整備するなど、図書館 DX を推進している。
- ③飯田西中学校取組紹介:学校図書館が中心となり、「一人一探究」「探究タイム」をカリキュラムに位置づけ、年間を通して生徒の情報活用能力を育てている実践は学ぶべきことが多くありました。飯田西中学校と同じことはできなくても、学校職員と連携して情報活用能力育成や、発信の場としての図書館のあり方を考えていきたいと思いました。

【グループ別情報交換会】参加者が A4 版1枚程度の実践報告書を持ち寄り、40分ずつ2回実施

各校、各司書の挑戦や工夫を共有でき、大きな刺激となりました。少人数グループでの対話は話しやすく、グループ替えを行うことで校種や地域を越えた幅広い実践に触れることができ、共感や励ましを得られた点も、これからの図書館運営につながるものとなりました。さらに、実践報告のレポートや写真資料により、直接聞けなかった学校の様子を知ることができ、学びを深める助けとなりました。

【その他】

今年度の大会は授業公開・授業研究会を開催しない形で実施しました。下伊那支部や各校の取組や工夫を直接語り合う時間が確保され、情報量が豊かで有意義な大会となりました。終日開催により交流の時間が十分にあり、地域全体で学校図書館の未来を考える場をつくることができました。

6 会計報告

- 【収入の部】 120,000円…長野県図書館協会小中学校部会南信大会助成金
- 【支出の部】 120,000円…三宅香帆氏 講演会費(150,000円)の補助
- 【差引金額】 0円